

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

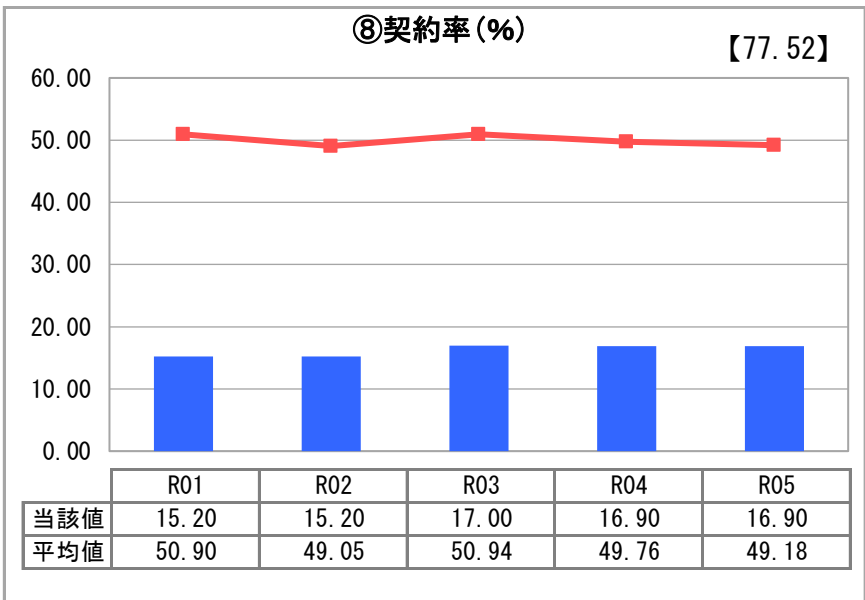
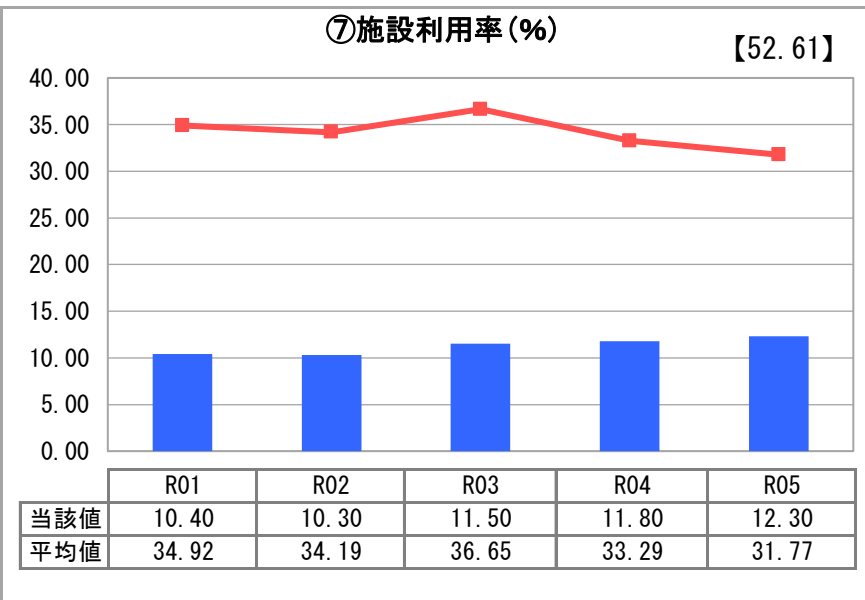
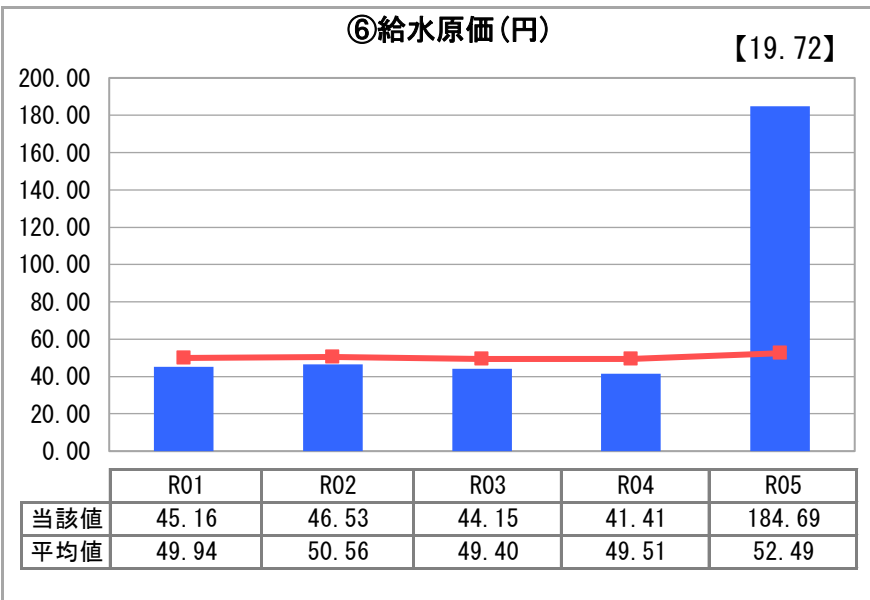
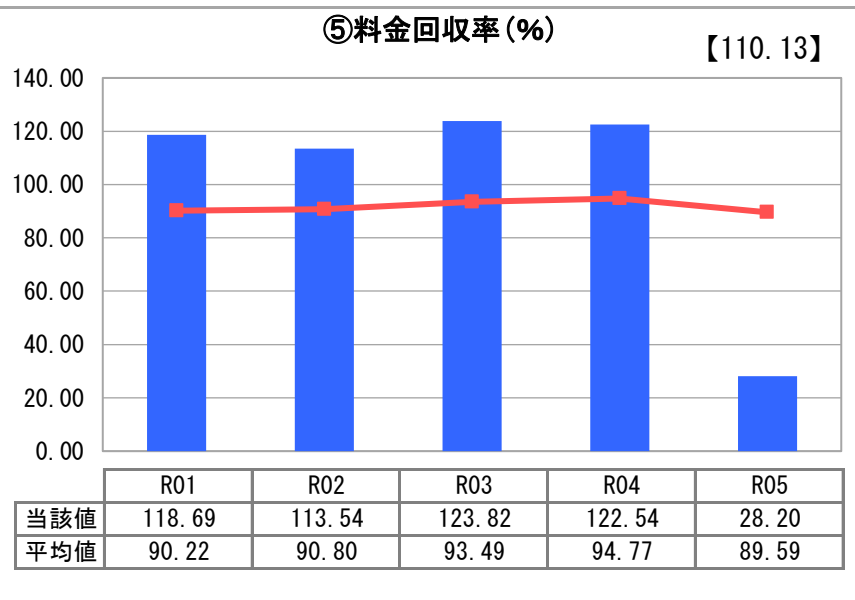
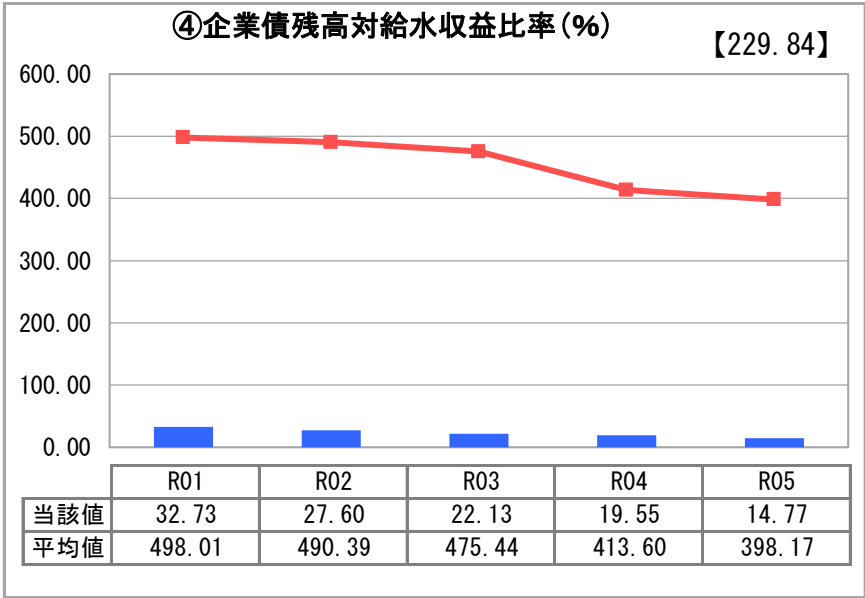
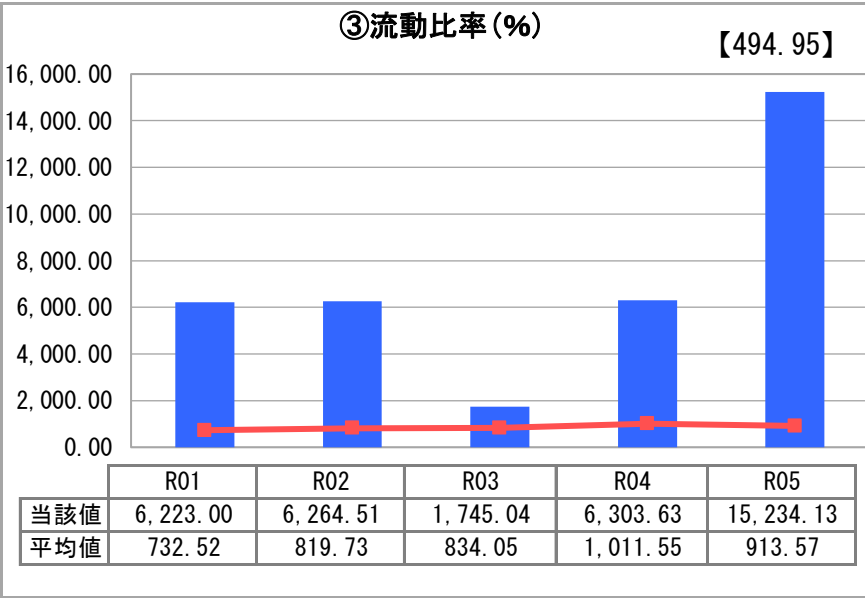
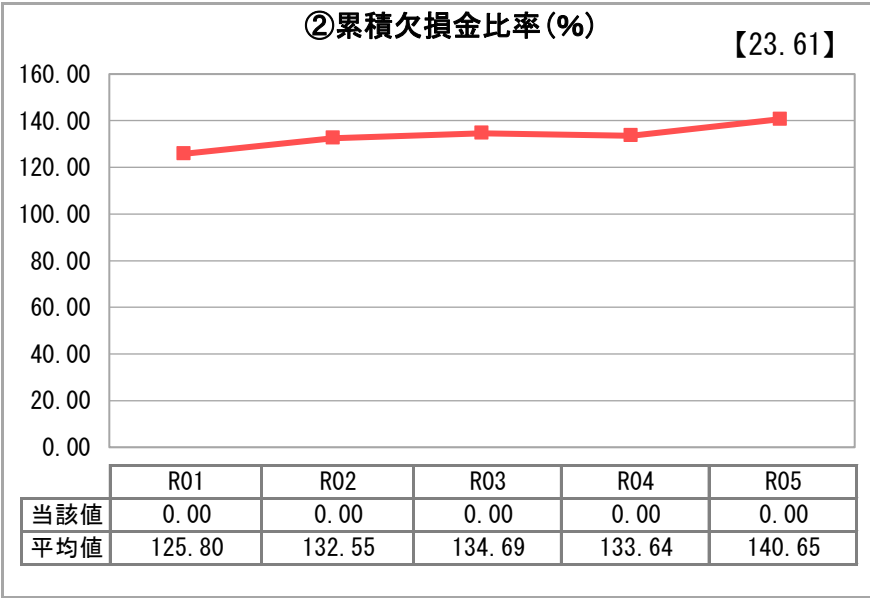
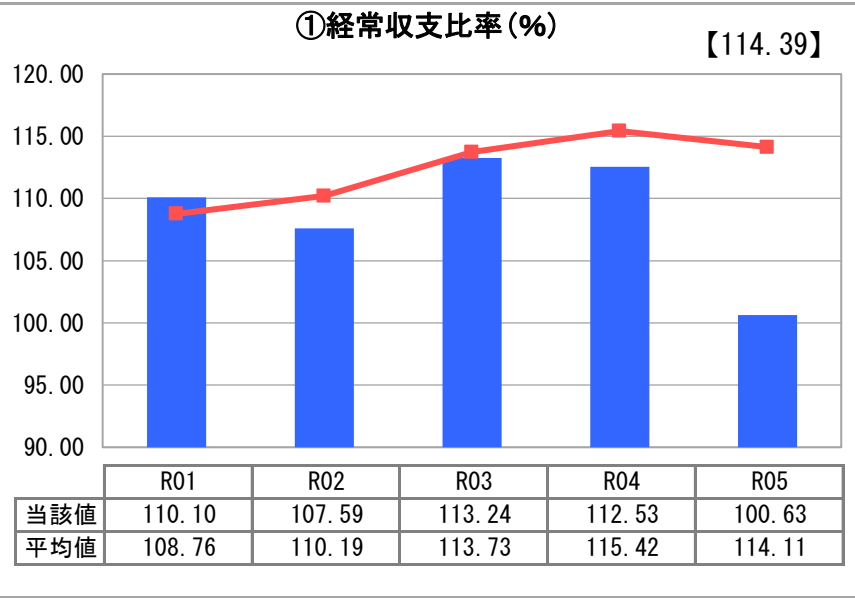
熊本県 熊本市

【事業概要】

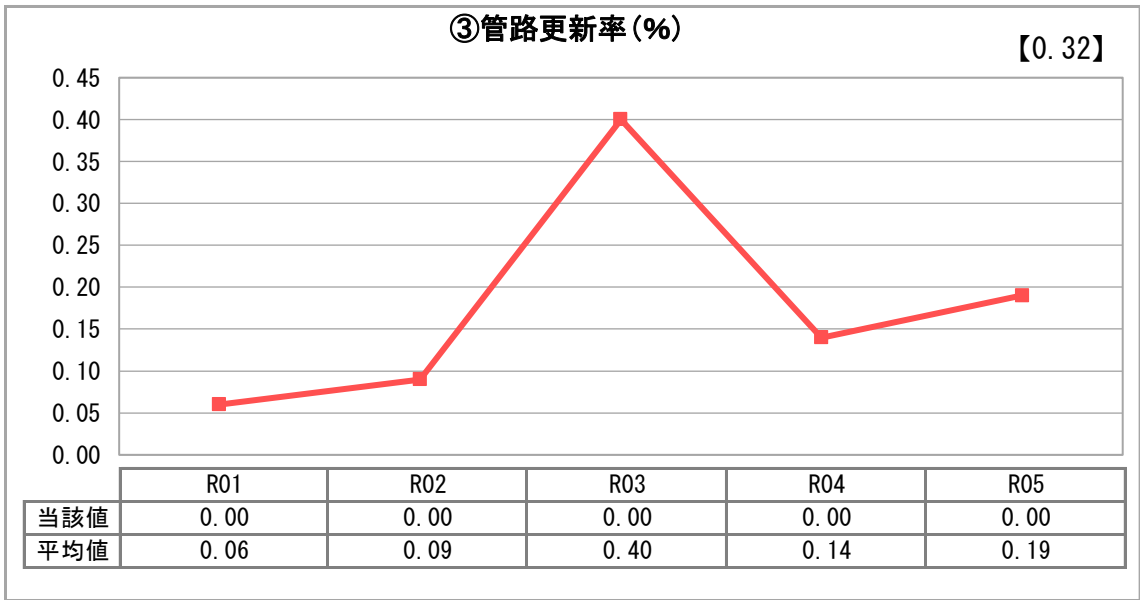
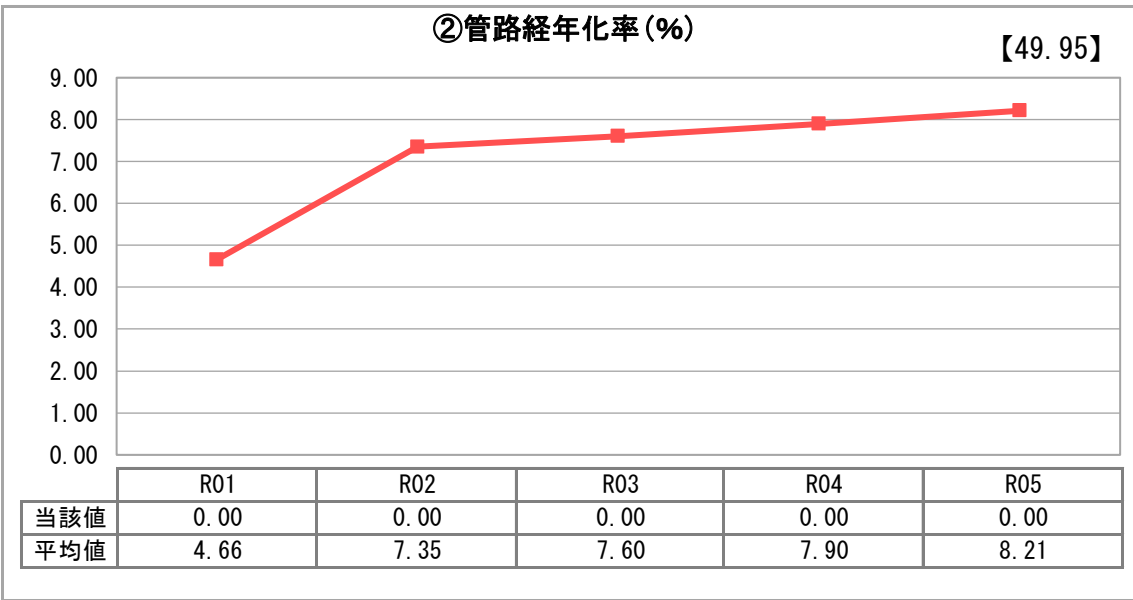
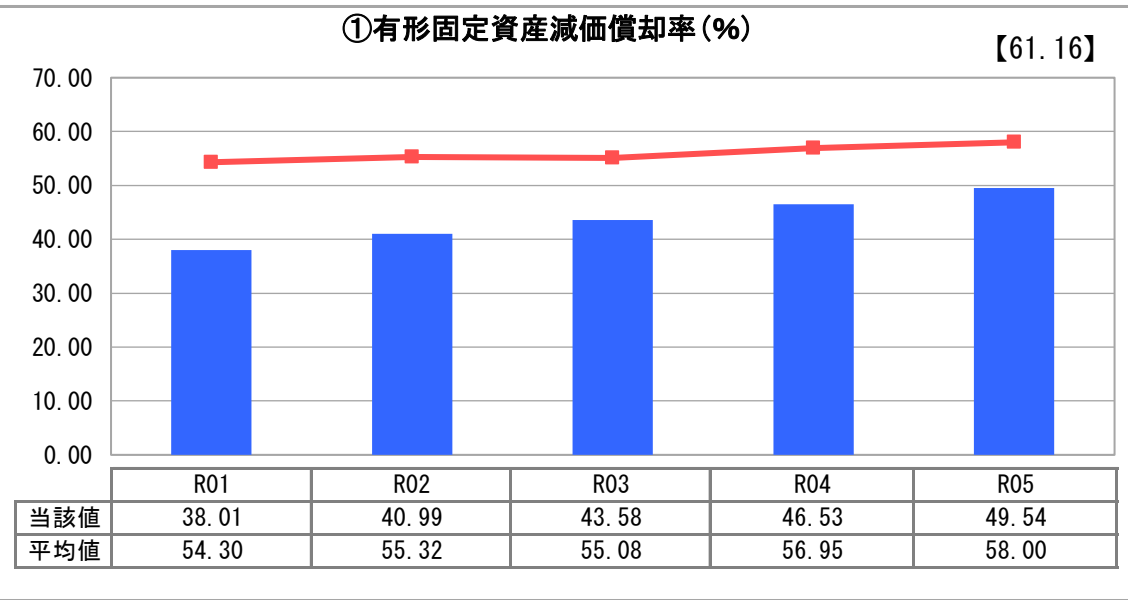
業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	1,000	極小規模	1	123
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	99.2	10	169	自治体職員	

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の工業用水道事業は、平成22年3月23日、市町村合併により本市に引き継がれました。平成6年に分譲が開始され、平成10年度から入地が始まり、現在10社に供給しており、全区画の分譲が完了しました。規模が非常に小さいため、効率化を進めるには限界がある状態です。

①経常収支比率は前年度に比べると値が減少しました。これは事業費の増加によるものです。しかし、健全経営の水準とされる100%以上を維持しています。

②累積欠損金比率は、0%を示しており、健全な経営状況であるといえます。

③流動比率は、類似団体平均値を上回っており、十分な支払い能力がある状態です。前年度と比べると高い値となっておりますが、一時的に流動資産が増加したため、令和6年度には以前と同じ水準となる見込みです。

④企業債残高対給水収益比率は企業債残高が少ないため、類似団体平均値を大幅に下回っています。

⑤料金回収率は、事業費が増加したことで100%を下回っています。しかし、事業費の増加は一時的なものであり、令和6年度には回復する見込みです。

⑥給水原価は、事業費が増加したことで前年度に比べ大幅に増加しました。しかし料金回収率と同様、一時的な増加であり、令和6年度には減少する見込みです。

⑦施設利用率は、配水量の伸び悩みにより類似団体平均値より低く推移しています。

⑧契約率は、施設利用率と同様に、契約水量の伸び悩みにより類似団体平均値より低く推移しています。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値よりも低く推移しています。

②管路経年化率、③管路更新率については、法定耐用年数を迎える管路がないため、更新を行っていません。

全体総括

料金収入は前年度に比べ増収したものの、施設の維持管理に必要な調査を実施した経費の発生により、前年度に比べ、値の増加、減少が occurredしました。しかし、これらは一時的なもので、令和6年度には回復する見込みです。

引き続き関係部局との連携を図りながら、工業用水の安定供給のために、「熊本市上下水道事業経営戦略」に則った事業運営に取り組んでいます。